

子どもの  
居場所・  
つくるひと14

子どもがのびのび育つ場所、  
近くになければつくつちゃえ!  
そんな熱い想いをもつ「ひと」と、  
すてきな「居場所」を、  
毎月全国からよりすぐって、  
ご紹介します!

今月の「居場所」

子どもも大人もわたらしくいられる町を育てる

# まちのおやこ テーブル

(東京都国分寺市)

都市での育児が「孤育て」になりがちないま、まちのひと同士で助け合える緩やかな関係をつくれないか。そう考えた、東京・国分寺に住む4人の女性がスタートさせた「まちのおやこテーブル」。子どもや子どものいないひとも一緒に、まちをたのしい場所にしようと活動しています。

(写真右から)

深津高子さん

(モンテッソーリ教育者)

ふかつ・たかこ 全国のモンテッソーリ園のコンサルタント、教師養成などに携わる。

ヨーコさん

(会社員)

こばやし・ようこ 調査・コンサルティングを仕事とする、2児の母。国分寺に越してきて2年目に活動開始。

小笠原光子さん

(カフェ店主)

おがさわら・みづこ 飲食の仕事が長い経験を生かし、イベントではレシピ提供や調理指導などで活躍。

小坂昌代さん

(児童館非常勤職員)

こさか・まさよ 地域に築いたネットワークを駆使し、ひとをつなげるのが得意。職場では經理事務を担当。

まちでの子育てが  
「孤育て」にならないよう、  
声をかけあいたい。



みんなでおやつの時間。深津さんが「いただきます、とは感謝していただくという意味」だと子どもたちに話す、子どもたちもじっと聞き入ります。



イベントでは、子どもが絵本を読み聞かせてくれる時間も。詰まつたり、間違えても、誰もとがめたり笑つたりしません。



「おやこで楽しむまち案内~こどもとイッポ 二ホサンボ」パンフレットの作成も。2年間の活動で出会った、「まちのおやこ」のお店や活動を紹介しました。

のでした。

「これで復職してフルタイムで働くなんてムリ、と危機感を抱きました。

夫も多忙で親は遠距離。近所に友人もいない。それならば、地域で一緒に子育てできるひとを見つけて、仲間を増やそうと考えました。そこで上の子の保育園で同じ学年の保護者の小笠原さんに声をかけました。そして、彼女のカフェで妄想をカタチにしていきました」(ヨーコさん)

小笠原光子さんはヨーコさんに、地域に知り合いが多い小坂昌代さんを紹介。知り合いの少ないヨーコさんは頼もしい存在です。もうひとりの呼びかけ人で、「クーヨン」のモンテッソーリ特集でもおなじみの深津高子さんをこの活動に結びつけたのも、小坂さんでした。

4人で手がけたはじめてのイベントは「夕食会」。東京都の助成対象事業にも選ばれ、深津さんのパートナーが国分寺で運営するカフェ「カフェエスpresso」を借りて行されました。「平日の夕食をみんなで囲み、まちのことを知るきっかけの場です」(ヨーコさん)



## ○DATA

スタートは2013年12月。決まった活動場所ではなく、地域のカフェや公民館などを借りながら柔軟に活動中。イベントなどは内容が決まりしだい、こちらのサイトに告知が出ます。<http://machinooyako.com/>

## ○活動内容

年6回、隔月で活動を行うことだけがおおまかなルール。何をやるかは、4人の呼びかけ人と会を支える会員「まちのおやこ」14名が決定。それぞれのアイデア、活動に关心をもつ地域のひとたちの提案を組み合わせながら決めていく。これまで、公園で子どもと大人が絵本を読み合う会、カフェの終業後にごはんを食べながらワンテーマを学び合う会、子どもの料理の会などを開催。